

5月28日(日)名古屋市障害者スポーツ大会が瑞穂公園陸上競技場で開催されました。

私たちは、選手が競技に参加するために次のような、それぞれの役割を担当しました。

選手は競技開始時間の15分前迄に集合場所に集合し、10分前になると、最終エントリー選手が確定されます。これまでに集合しないと選手は失格になります。集合係は選手集めに躍起になります。せっかくエントリーしたのに、出場できないのは選手も残念ですが、引率された、保護者や施設の職員さんにとっても残念です。集合係は声をからして選手の名前を呼びます。

集合した選手を競技場所までプラカードを持って案内するのは、誘導係です。集合確認した選手カードを持って誘導するのですが、途中でいなくならない様に後ろにも十分注意する必要があります。急にトイレに行きたくなくて、黙って行ってしまう選手もいて、あわてて探しまわることもあります。誘導係りは後ろにも目が必要です。

誘導係が連れてきた選手引き継ぐのは出発係です。選手をスタート順に並べ、選手カードに合わせ選手確認を行い、スタートの番になった選手をスタートラインに並んでもらいます。選手は陸上競技規則をよく理解できていない方も多く、スタートラインを指示しても前に行ったり後ろに来たり、また用意で静止するのも困難な方、スタートの合図がなったのに出発しない方というとおられます。ここでは陸上競技競技審判の方との共同作業です。

競技が終了した選手をゴールで向かえ、順位毎に並べるのがゴール係です。順位は審判が指示を出し、それに従い選手を誘導します。ゴール直前の必死になった選手の様子が見ることが出来るホットコーナーです。力いっぱい走ってきた選手の満足のいく顔、結果が出ずに悔しがる顔、とにかく終わってほっとした顔、そんな素敵な選手の顔がみることができます。

その選手を誘導係が表彰式まで誘導します。そして表彰係からそれぞれの結果に合わせたメダルを頂きます。誇らしげに手を突き上げたり、記念写真にピースをしたり、先ほどまで悔しい顔もやり遂げた満足感からかおだやかに落ち着いています。また、来年も来いよと声を掛けられ選手は戻っていきます。他にもたくさんの方の協力で成り立っています。

私は陸上競走競技でのスタート場所での選手確認とスタート位置までの誘導を行いました。種目は100m、200m、400m、800m、5000m競走及び4×100mリレーを担当でした。召集確認後、その場を離れた選手がいて、スタート場所の確認の際に判明しましたが、スタートまでには戻り、事なきを得ました。競技を円滑に行うことも必要ですが、エントリーした選手がスタートせず終わらせないことが私たちの役割です。

審判の方も障害者大会を何度も経験されており、障害者の特性をよく理解して、上手に選手に対して声がけして誘導したり、緊張している選手に微笑みかけて安心させてくれたり、本当に選手を思いながら接して頂き頭が下がります。何回か大会の応援をしているうちに顔なじみなる審判の方もいます。大会の目的のひとつでもある障害者の理解ということでは、審判の方が一番よく理解しているかもしれません。それが、選手にとってもとてもよいことだと思います。

競技は白熱の戦いを無事に終えることができました。

午前の陸上競技終了後、レクリエーションとして、大玉ころがし競走をしました。トラック全周にわたり出場選手、付き添いの方々、役員が2列に並びます。その2列の間を直径1m以上の大玉をころがします。半周は大玉ですが、反対側の半周に対戦相手が出て、どちらが速いか競走をします。

対戦相手はスポレンジャーの5名です。障害者スポーツセンターにも新庄選手がいたんですね。驚きです。なんとスポレンジャーは黄、青、緑、桃、赤色のレンジャースーツに身にまとい、はるかバックスタンド国旗掲揚台からさっそうと現れると、一斉に歓声が沸きあがります。選手は大喜びです。あれは中に先生が入っているんだと知ったかぶりをする選手がいると思うと、それを否定して絶対に本物だと必死に言う選手もいて、会場は大騒ぎです。一気に楽しい雰囲気に包み込まれました。

対戦結果はやさしいスポレンジャーのお陰で2回戦とも大玉送りの勝ちとなりました。また、大玉送りの前後に、音楽に合わせてのスポレンジャー体操も楽しい雰囲気を盛り上げました。このレクリエーション企画について他の地区のスポーツ指導員の方にお話する機会があり、その方から楽しむというスポーツ本来の役割も果たした大会だと高い評価を得ることができました。スポレンジャーを皆な来年も待っています。選手と共に再会をお待ちしています。